

平成26年度

地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」のまとめ

平成 27 年 3 月

兵庫県教育委員会

目 次

I 平成26年度地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」実施状況 のまとめ	
1 参加生徒数等について	・・・ 1
2 公立中学校及び県立中等教育学校の活動について	・・・ 2
3 市立特別支援学校の活動について	・・・ 5
II 地域連携推進活動（地域に活かす「トライやる」アクション） 実施状況について	・・・ 6
[資料1] 平成26年度地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」実 施後アンケート調査の結果	・・・ 7
[資料2] 平成26年度「トライやる・ウィーク」校区推進委員 会について	・・・ 13

I 平成26年度地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」実施状況のまとめ

1 参加生徒数等について

- (1) 実施校は、362校（全公立中学校 345校、県立中等教育学校 1校、市立特別支援学校 16校）
 6月を中心に実施した学校：231校(63.8%)（内数：市立特別支援学校 5校）
 11月を中心に実施した学校：131校(36.2%)（内数：市立特別支援学校 11校）
- (2) 実施期間は、平成26年5月12日～平成26年12月12日
- (3) 参加生徒数は、48,045名（内数：特別支援学級 592名、市立特別支援学校 146名）
- (4) 班数は、18,040班で1班につき生徒平均2.7名 ※17年間：854,274名
- (5) 活動場所数は、17,318カ所で1カ所につき生徒平均2.8名
- (6) 指導ボランティアの数は、22,517名でボランティア1名につき生徒平均2.1名
- (7) 市立特別支援学校の介助補助員数は、86名

年度	実施校数	2年生		班の数	活動場所の数	指導ボランティアの数
		学級数	生徒数			
H26	362	1,409	48,045	18,040	17,318	22,517
H25	364	1,415	48,801	17,660	17,261	22,955
H24	366	1,448	49,514	17,515	17,312	22,855
H23	365	1,437	48,885	17,355	17,306	21,992
H22	368	1,413	48,094	17,110	16,325	19,858
H21	369	1,403	47,271	16,487	15,893	20,093
H20	371	1,428	48,806	17,515	16,267	19,810
H19	370	1,381	46,821	17,019	15,498	20,509
H18	370	1,411	48,187	17,381	15,590	20,593
H17	372	1,437	48,546	16,613	15,720	20,743
H16	372	1,430	48,913	16,239	15,561	20,269

年度	班編制	活動場所	指導ボランティア
H26	1班：2.7名	2.8名につき1カ所	2.1名につき1名
H25	1班：2.8名	2.8名につき1カ所	2.1名につき1名
H24	1班：2.8名	2.9名につき1カ所	2.2名につき1名
H23	1班：2.8名	2.8名につき1カ所	2.2名につき1名
H22	1班：2.8名	2.9名につき1カ所	2.4名につき1名
H21	1班：2.9名	3.0名につき1カ所	2.4名につき1名
H20	1班：2.8名	3.0名につき1カ所	2.5名につき1名
H19	1班：2.8名	3.0名につき1カ所	2.3名につき1名
H18	1班：2.8名	3.1名につき1カ所	2.3名につき1名
H17	1班：2.9名	3.1名につき1カ所	2.3名につき1名
H16	1班：3.0名	3.1名につき1カ所	2.4名につき1名

2 公立中学校及び県立中等教育学校の活動について

(1) 活動内容

ア 分野別

活動分野	H26	H25	H24	H23	H22	H21	H20	H19	H18	H17	H16
① 職場体験活動	83.8%	83.5%	84.4%	83.5%	81.7%	82.6%	82.0%	82.7%	81.0%	81.3%	79.2%
② ボランティア・福祉体験活動	8.3%	8.0%	7.3%	7.8%	7.8%	7.0%	7.5%	6.6%	6.7%	7.0%	7.9%
③ 文化・芸術創作体験活動※1	3.4%	3.1%	3.7%	3.9%	3.8%	4.5%	4.8%	5.0%	6.1%	5.8%	5.7%
④ その他※2	2.3%	3.2%	2.2%	2.3%	4.0%	3.1%	2.8%	2.9%	3.1%	2.7%	3.7%
⑤ 農林水産体験活動	2.2%	2.2%	2.4%	2.5%	2.7%	2.8%	2.9%	2.8%	3.1%	3.2%	3.5%

※1 ③「文化・芸術創作体験活動」には、平成16年度から「地域・郷土・芸能活動」が含まれている。

※2 ④「その他」には、「国際理解、科学技術、環境、情報」が含まれている。

イ 内容別（上位10の活動内容）

活動内容	H26	H25	H24	H23	H22	H21	H20	H19	H18	H17	H16
① 幼児教育	20.6%	21.1%	20.8%	20.7%	20.9%	21.1%	21.0%	21.0%	20.6%	20.6%	20.2%
② 販売	20.3%	19.6%	19.3%	19.2%	19.6%	19.3%	19.4%	20.3%	20.1%	20.9%	20.6%
③ 役所・消防署等	7.5%	8.0%	7.9%	8.4%	7.8%	8.0%	7.8%	7.8%	7.8%	8.1%	7.9%
④ 社会福祉施設	7.1%	6.9%	6.3%	6.5%	5.9%	5.4%	5.5%	5.0%	5.2%	5.3%	5.7%
⑤ 飲食店等	7.0%	6.5%	6.4%	6.6%	6.1%	6.4%	6.1%	5.5%	5.4%	5.3%	5.2%
⑥ 小学校・高校・大学	5.4%	5.5%	5.4%	5.0%	4.6%	4.6%	4.3%	4.2%	4.0%	3.0%	—
⑦ 製造・建築	4.7%	5.1%	5.0%	4.7%	4.9%	4.9%	5.7%	5.8%	5.9%	5.9%	5.8%
⑧ 病院等	3.8%	3.7%	3.6%	3.7%	3.5%	2.9%	3.4%	3.3%	3.3%	3.3%	3.2%
⑨ スポーツ・体育施設等	3.5%	3.7%	3.7%	3.8%	3.7%	3.7%	—	—	—	—	—
⑩ 文化・芸術創作体験活動※	3.3%	3.1%	3.7%	3.9%	3.8%	4.5%	4.8%	5.0%	6.1%	5.8%	5.7%

※ ⑩「文化・芸術創作体験活動」には、平成16年度から「地域・郷土・芸能活動」が含まれている。

ウ 本年度の特色ある取組

・定置網漁、底引き網漁体験	・釣り竿、釣り針の製造及び酒配達	・赤穂緞通の小作品製作
・牡蠣養殖作業の手伝い	・和太鼓の修理	・老人福祉施設での介護体験
・但馬牛の飼育体験	・竹田城の受付補助	・高齢者への弁当配達、日帰り介護
・和ろうそく作り	・地域内の歴史、文化財の説明体験	・手話体験、傾聴ボランティア体験
・清酒製造、酒樽作り	・古文書整理及び読解作業体験	・障害者が働く喫茶店での接客体験
・蕎麦打ち、地場野菜の販売	・海洋スポーツ指導の補助	・プロ野球団の広報、試合運営補助

(2) 生徒の希望達成度

・第一希望が叶えられた生徒は、68.1%である。

活動内容	H26	H25	H24	H23	H22	H21	H20	H19	H18	H17	H16
・第一希望が叶えられた生徒	68.1%	69.1%	70.0%	70.9%	70.6%	70.0%	70.7%	69.8%	72.0%	71.2%	70.4%
・第二希望が叶えられた生徒	18.9%	17.6%	17.1%	16.5%	16.2%	16.5%	16.1%	17.4%	16.6%	16.7%	16.3%
・第三希望が叶えられた生徒	7.1%	7.4%	6.8%	6.6%	6.5%	7.2%	6.6%	6.8%	6.5%	6.5%	6.3%
・その他	6.0%	5.9%	6.1%	6.0%	6.7%	6.3%	6.6%	6.0%	4.9%	5.6%	7.0%

(3) 第一希望にならなかった生徒への対応（複数回答）

- ・活動の意義の話 ……………67.1%
- ・他の紹介及び新しい受入先開拓 ……63.6%
- ・時間をかけて話し合った ……………51.4%

(4) 生徒の「やりたいことができる」活動場所の確保について

- ・新規の活動場所の割合（数）・・・11.8%（2,032カ所）
- ・校区外の活動場所の割合（数）・・・42.1%（7,242カ所）

(5) 事前指導について

ア 事前指導の平均時間数・・・11.6時間

イ 主な事前指導の内容例（公立中学校及び中等教育学校の実施率）

・趣旨及び活動説明会	(99.7%)	・名刺作り等	(76.6%)
・希望調査	(98.8%)	・ボランティア等との打ち合わせ	(74.9%)
・受入先への訪問	(96.2%)	・進路(職業調べ等)	(74.0%)
・マナー指導等	(93.9%)	・他学年、地域等への啓発活動	(61.3%)
・受入先の紹介等	(88.4%)	・福祉学習	(32.4%)
・出発式	(77.2%)		

(6) 事後指導について

ア 事後指導の平均時間数・・・7.6時間

イ 主な事後指導の内容例（公立中学校及び中等教育学校の実施率）

・礼状作成等	(95.7%)	・進路学習	(49.1%)
・感想文集作成等	(95.4%)	・発展学習	(37.0%)
・実践発表会	(84.7%)	・「トライやる」アクション	(36.7%)
・広報活動	(49.4%)	・交流会	(18.2%)

※ 発展学習実施校（128校）の内訳

情報学習	(77.3%)	福祉・健康学習	(60.9%)	人権学習	(47.7%)
防災学習	(30.5%)	環境学習	(27.3%)	平和学習	(20.3%)
国際理解学習	(8.6%)				

(7) 「トライやる・ウィーク」における校種間連携について

小学校と連携した取組の実施	54.9%
高等学校と連携した取組の実施	6.6%

[連携した内容]

- ・小学校に受け入れを依頼し、教育活動の一部を体験させてもらっている。
- ・中学校の部活動体験で、小学生がトライやる・ウィーク前に学校に訪れ、中学生と小学生の交流を図っている。
- ・実施期間に2年生所属職員中心に小学校に出前授業を行った。
- ・実施期間に小学校6年生が中学校の教室で勉強する「プレ1日中学生」を実施している。
- ・小学校職員のトライやる・ウィーク報告会への参加
- ・「トライやる」アクションとして、小学校の運動会当日の運営補助をしている。
- ・小学校長に校区推進委員をお願いしている。
- ・特別支援学校と特別支援学級の交流を実施した。
- ・高校に受け入れ先事業所としてバンク登録してもらっている。本年度1名が参加し、広報誌に活動の様子を紹介してもらった。

(8) 不登校生徒への影響（市立特別支援学校は除く）

- ・1年生の時に不登校の生徒（年間30日以上欠席）のうち、「トライやる・ウィーク」に全日参加した生徒は、360名（全体の40.5%）であった。
- ・実施後1ヵ月の状況は、151名（全日参加生徒の41.9%）の生徒の登校率が上昇した。実施後2ヵ月の状況は、136名（全日参加生徒の37.8%）の生徒の登校率が上昇した。

	調査校	在籍生徒数	左のうち1年生の時に不登校の生徒数	全日参加生徒数	実施後1ヵ月の状況 登校率の上昇した生徒	実施後2ヵ月の状況 登校率の上昇した生徒
H26	346校	48,548名	889名	360名	151名	136名
				40.5%	41.9%	37.8%
H25	347校	49,128名	977名	442名	188名	178名
				45.2%	42.5%	40.3%
H24	348校	49,399名	984名	457名	175名	157名
				46.4%	38.3%	34.4%
H23	348校	48,781名	916名	427名	163名	154名
				46.6%	38.2%	36.1%
H22	350校	48,614名	887名	344名	128名	129名
				38.8%	37.2%	37.5%
H21	352校	48,021名	934名	383名	152名	143名
				41.0%	39.7%	37.3%
H20	354校	49,323名	948名	405名	151名	139名
				42.7%	37.3%	34.3%
H19	353校	47,369名	965名	442名	159名	144名
				45.8%	36.0%	32.6%
H18	354校	48,677名	928名	416名	163名	150名
				44.8%	39.2%	36.1%
H17	355校	49,025名	989名	467名	174名	162名
				47.2%	37.3%	34.7%
H16	359校	49,413名	1,030名	482名	193名	192名
				46.8%	40.0%	39.8%

3 市立特別支援学校の活動について(平成 17 年度から実施)

(1) 実施校数 16 校

6 月を中心に実施した学校：5 校、11 月を中心に実施した学校：11 校

(2) 実施期間 平成 26 年 5 月 21 日～ 11 月 25 日

(3) 参加生徒数 146 名 (45 クラス、在籍生徒数 150 名)

(4) 班数 103 班 (1 班平均 1.4 名)

(5) 指導ボランティア数 201 名 (生徒 0.7 名につき 1 名)

(6) 介助補助員数 86 名 (生徒 1.7 名につき 1 名)

(7) 活動場所数 182 ヲ所

居住地中学校区内で活動した生徒の割合 27.4% (40 名/146 名)

	実施校数	2 年生		班の数	活動場所 の数	指導ボラン ティアの数	介助補助員 の数
		学級数	生徒数				
H26	16	45	146	103	182	201	86
H25	17	37	112	58	86	153	51
H24	18	41	115	85	119	137	55
H23	17	41	104	68	96	149	89
H22	18	38	104	68	93	145	118
H21	17	37	97	62	104	159	92
H20	17	38	111	65	100	183	98
H19	17	34	82	59	87	115	58
H18	16	31	78	43	65	79	48

	班編制	活動場所数	指導ボランティア数	介助補助員数
H26	1 班：1.4 名	0.8 名につき 1 ヲ所	0.7 名につき 1 名	1.7 名につき 1 名
H25	1 班：1.3 名	1.3 名につき 1 ヲ所	0.7 名につき 1 名	2.2 名につき 1 名
H24	1 班：1.4 名	1.0 名につき 1 ヲ所	0.8 名につき 1 名	2.1 名につき 1 名
H23	1 班：1.5 名	1.1 名につき 1 ヲ所	0.7 名につき 1 名	1.2 名につき 1 名
H22	1 班：1.5 名	1.1 名につき 1 ヲ所	0.7 名につき 1 名	0.9 名につき 1 名
H21	1 班：1.6 名	0.9 名につき 1 ヲ所	0.6 名につき 1 名	1.1 名につき 1 名
H20	1 班：1.7 名	1.1 名につき 1 ヲ所	0.6 名につき 1 名	1.1 名につき 1 名
H19	1 班：1.4 名	0.9 名につき 1 ヲ所	0.7 名につき 1 名	1.4 名につき 1 名
H18	1 班：1.8 名	1.2 名につき 1 ヲ所	1.0 名につき 1 名	1.6 名につき 1 名

(8) 活動内容

ア 分野別

活動分野	H26	H25	H24	H23	H22	H21	H20	H19	H18
① 職場体験活動	53.4%	61.5%	62.9%	55.8%	45.5%	51.9%	54.9%	53.8%	64.5%
② ボランティア・福祉体験活動	19.5%	13.1%	12.7%	23.5%	16.5%	16.4%	20.2%	14.8%	14.2%
③ 農林水産体験活動	12.7%	7.0%	11.1%	12.7%	15.6%	13.5%	9.1%	8.6%	7.1%
④ その他	11.9%	9.6%	4.2%	0.8%	16.0%	9.1%	7.1%	12.8%	2.0%
⑤ 文化・芸術創作体験活動	2.5%	8.9%	9.1%	7.3%	6.5%	9.1%	8.7%	10.0%	12.2%

イ 内容別 (平成 26 年度上位 6 の活動内容)

① 社会福祉施設	19.5%	④ 美術館博物館科学館	9.3%
② 農業	12.7%	⑤ 販売	6.5%
③ 水族館	11.0%	⑥ 製造・建築	5.9%

ウ 本年度の特色ある取組

・ FM放送局での活動	・ 介護体験	・ 福祉体験実習
・ 作業所での作業補助	・ 障害者支援施設園生との交流	

II 地域連携推進活動（地域に活かす「トライやる」アクション）について

(1) 実施校 231校 63.8% (H25 206校 56.6%)

(2) 参加生徒数 ()内は特別支援学校生徒参加数：内数

学年	参加生徒数	1校当たりの参加生徒数
1年生	20,898名(27)	90.5名
2年生	22,737名(29)	98.4名
3年生	16,803名(38)	72.7名
合計	60,438名(94)	261.6名

(3) 活動内容について ()内は特別支援学校：内数 (複数回答あり)

活動区分	実施校数	割合	実施数	割合
地域の祭り等を企画、運営する活動	137校(2)	59.3%	364(4)	35.2%
清掃活動やボランティア等を諸団体と連携して行う活動	182校(2)	78.8%	538(2)	52.0%
「トライやる・ウィーク」の継続的な活動	74校(2)	32.0%	132(3)	12.8%
	※母数は、実施校数		1,034(9)	

(4) 活動の内容例

<ul style="list-style-type: none"> ・地域の夏祭り、運動会、音楽会等の企画 ・地域伝統行事への参加及び運営補助（地蔵盆、しめ縄づくり、餅つき、とんど 等） ・地域イベントへの参加及び運営補助（市民マラソン大会、地域のフェスティバル 等） ・清掃活動、ポイ捨て防止キャンペーン、資源ゴミ回収、海岸清掃 ・地域の方、高齢者の方とのスポーツ交流・文化交流 ・人権パレード、人権集会、健康フェスタ、 ・ふれあいコンサート、定期演奏会 ・駅周辺マナー改善アピールパレード ・復興支援募金コンサート、ユニセフ募金 ・献血チラシ配付 ・地区防災訓練、消防大会 ・敬老会、高齢者元気まつり、老人ホーム施設訪問、認知症サポート ・子育てボランティア、子育て学習センターイベント、親子遊び ・ラジオ体操指導
--

(5) 実施時期について ()内は特別支援学校：内数 (複数回答あり)

	実施校数	割合	実施数	割合
土曜、日曜日等を利用して実施	221校(4)	95.7%	701(7)	68.0%
夏季休業中に実施	138校(1)	59.7%	312(1)	30.3%
冬季休業中に実施	8校(0)	3.5%	14(0)	1.4%
春季休業中に実施	4校(0)	1.7%	4(0)	0.4%
	※母数は、実施校数		1,031(8)	

[資料1] 平成26年度地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」実施後アンケート調査の結果（調査実施校数 346校）

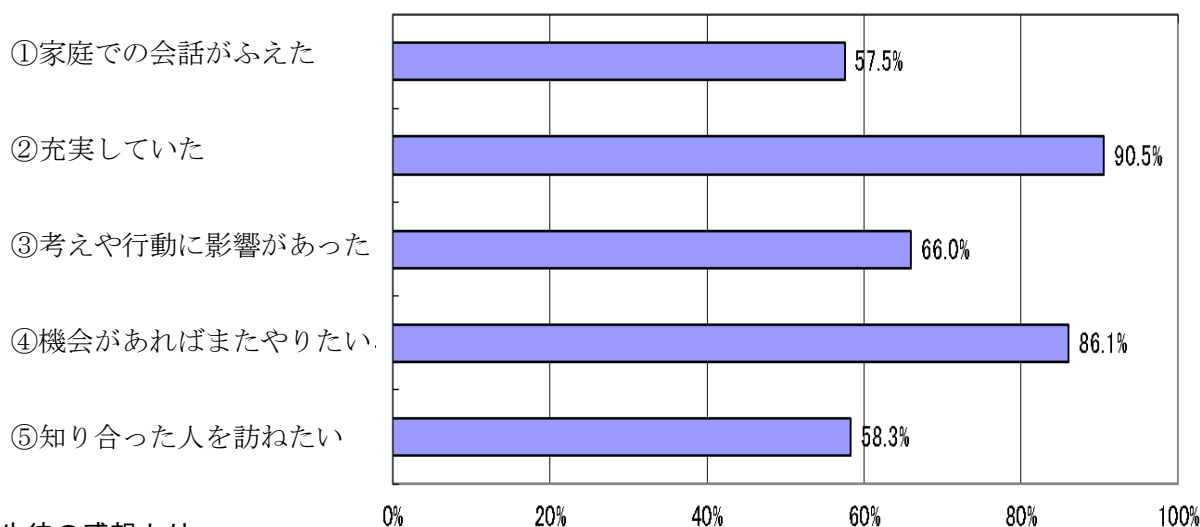
- 1 生徒アンケート（回答数 46,329人）
- 2 保護者アンケート（回答数 37,687人）
- 3 関係者アンケート（回答数 14,151人）
- 4 教職員アンケート（回答数 3,372人）



1 生徒アンケート（回答数 46,329人）

質問項目	平成26年度	平成25年度
働くことの大切さ、厳しさ、楽しさを感じた	92.1%	92.9%
コミュニケーションの大切さを感じた	78.4%	78.2%
社会のルールやマナーの大切さを感じた	76.0%	76.0%
大人の人の優しさを感じた	71.9%	71.1%
人のために役に立つうれしさを感じた	70.2%	69.8%
達成感や自信を感じた	69.4%	68.0%
人とのふれあうことの楽しさを感じた	69.0%	70.5%
保護者や大人の人への感謝の気持ちを感じた	67.9%	67.2%
学校で学んだり活動する目的の大切さを感じた	52.1%	51.3%

（設問） ①「トライやる・ウィーク」を体験する中で、家庭での会話がふえた。
 ②自分にとって、「トライやる・ウィーク」の一週間は充実していた。
 ③「トライやる・ウィーク」の活動で、自分の考えや行動に影響があった。
 ④「トライやる・ウィーク」のような活動を機会があればまたやってみたい。
 ⑤「トライやる・ウィーク」が終わってからも、「トライやる・ウィーク」をきっかけに知り合った人たちを訪ねたいと思う。

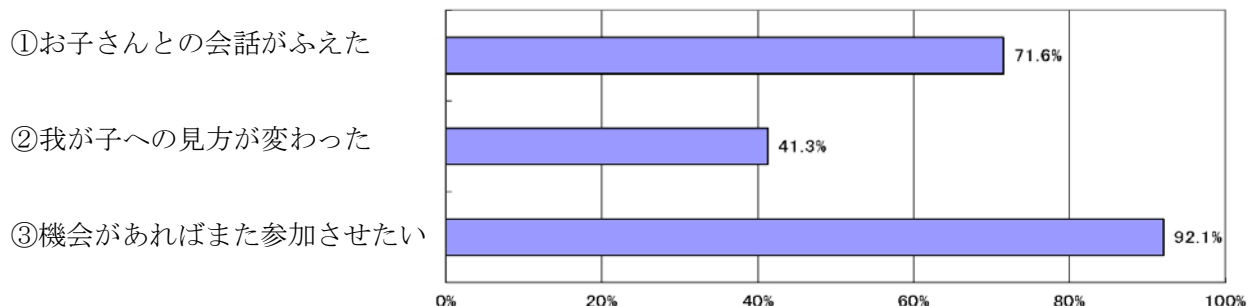


○生徒の感想より

- ・仕事をするというのは大変なことだけど、一生懸命やればやるほど、うれしさ、楽しさがあり、達成感ややりがいがありました。
- ・仕事には、表に見えないものがあり、その仕事で店が成り立っているのだと思いました。
- ・時間を守ること、自分から積極的に挨拶や行動すること、地域とのつながりや助け合いの大切さを学びました。
- ・どんな時も誰かのために自己を高めている人達の姿を見て、自分にももっとできることがあると思いました。
- ・私は周りの人たちの支えがあっこそ自分はいろんなことができるということを感じました。
- ・仕事は、楽しいこともあったが、しんどいという気持ちの方が大きかった。自分の親がしんどくても、私たち家族のために働いてくれていることに、本当に感謝したい。
- ・スタッフの皆様が楽しそうにいきいきと働かれていたので、私も将来、やっていて楽しいと思えて誇りに思える仕事に就きたいと思った。

2 保護者アンケート（回答数 37,687人）

- （設問）
- ① 「トライやる・ウィーク」を体験する中で、お子さんとの会話がふえた。
 - ② 「トライやる・ウィーク」の活動を通して、我が子への見方が変わった。
 - ③ 「トライやる・ウィーク」のような活動を機会があれば、また参加させたい。

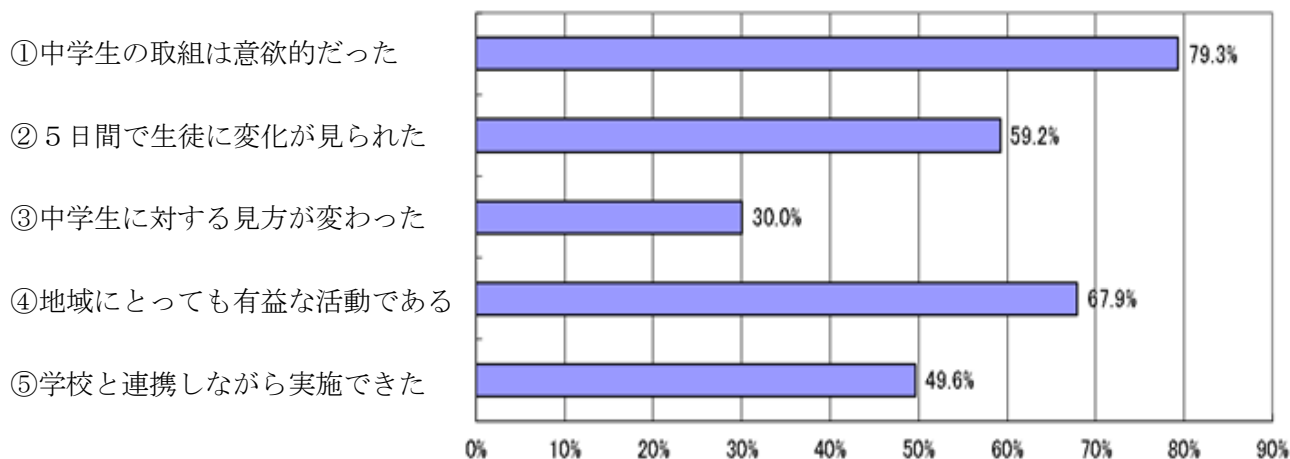


○保護者の感想より

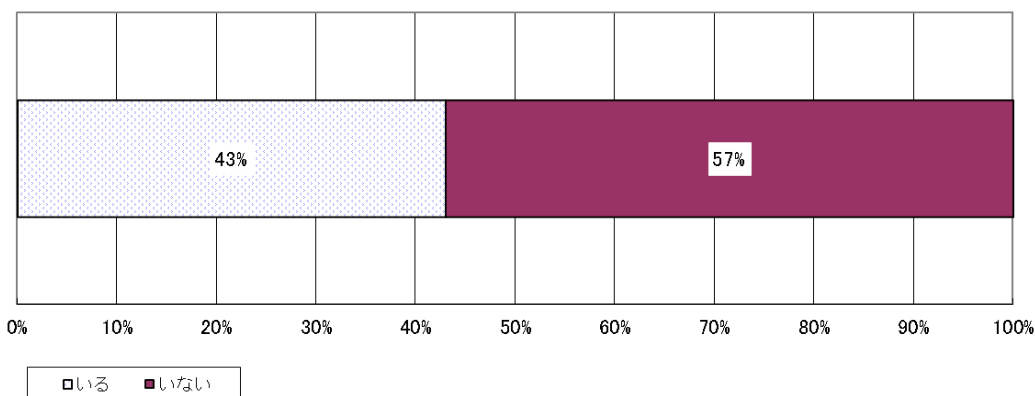
- ・毎日の出来事を楽しそうに話し、家族の会話が増えました。会話の中に達成感や充実感が感じられました。
- ・働くことはどういうことかを5日間で理解するのは難しいが、キャリアを考える良いきっかけになったと思います。
- ・仕事の厳しさが実感できて中学生活だけでは体験できない良い社会勉強になったと思います。
- ・14才という多感な時期に、短い期間でも社会に出て、社会のルールや厳しさを体験できるのはとても有意義なことだと思いました。職業体験も貴重な経験ですが、いろいろな人と関わって、自分をみつめなおす機会にしてほしいと願います。
- ・初日はとても疲れて帰ってきて「どうなることか」と心配しましたが、日を負うごと、楽しげにたくましくなっていました。
- ・勉強が苦手で、学校では落ち込んで帰る事も多かったのですが、トライやる・ウィークで「働く喜び」を感じる事ができ、「将来は身体を使って働きたい」と将来の夢を話すようになりました。
- ・地域の方々の眼差しや、子供が地域に目を向けることが、子供の成長に大きな効果があると感じました。
- ・初日帰宅後すぐ「仕事って大変だね」と素直に口から出て、主人や私に対して感謝の念を抱いたようです。また、期間中授業や部活がないのも「早く部活したいなあ」と逆にいつもの生活の大切さも感じる事ができ良かったです。
- ・人が社会の一員であり、社会貢献することの意味を実体験として校外で得ることの出来る、この世代の子たちにとって唯一の方法だと思います。

3 関係者アンケート（回答数 14, 151 人）

（設問）①「トライやる・ウィーク」に参加した中学生の取組は意欲的だった。
 ②「トライやる・ウィーク」の5日間で生徒に変化が見られた。
 ③この一週間で中学生に対する見方が変わった。
 ④「トライやる・ウィーク」は地域にとっても有益な活動である。
 ⑤学校と連携しながら実施できた。



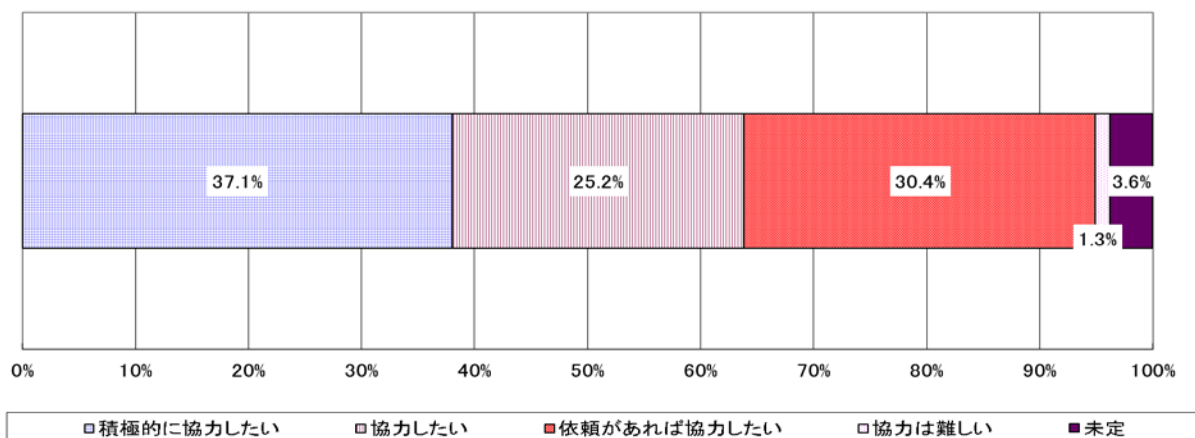
（設問）指導された方の中に中学生時代に生徒として「トライやる・ウィーク」を体験された方はいますか。



○ トライやる・ウィークを体験していた指導ボランティアの感想より

- ・中学生と接することで、自分も体験したことを思い出しました。受け入れ側として、生徒への接し方も勉強していく良い機会となりました。
- ・高校大学と進学し、将来のことについて真剣に考えなければならないという立場になった時、中学生の時に体験したトライやる・ウィークが少なからず影響しています。
- ・自分たちがトライやる・ウィークを体験していたので、とても貴重な時間になるようにしてあげたいと思いました。
- ・普段体験することがない話を出来るだけすることで、私と同じように、将来職業を選択する際の1つになれば良いなと思いました。
- ・当時言ってもらい、うれしかったことを思い出しながら関わりました。“すてきな仕事だな”と思ってもらえるように意識し関わりました。

(設問) 来年度以降も、「トライやる・ウィーク」にご協力をお願いしますか。

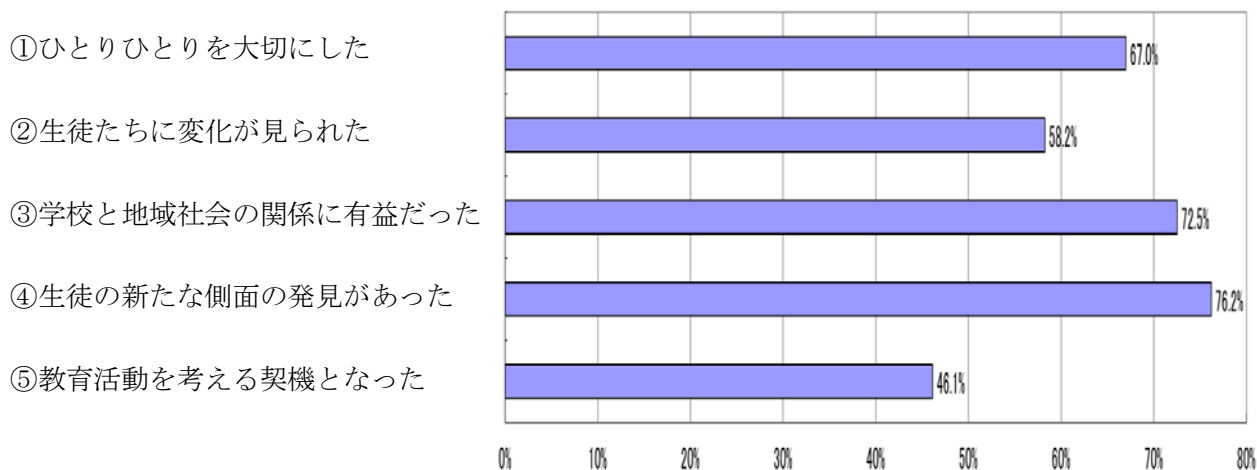


○ 指導ボランティアの感想より

- ・当事業所のみならず、地域の方々とも触れ合う機会があり、生徒も地域の一員であることの意識の醸成にもつながり、非常に有益であると考えます。
- ・なかなか中学生との交流はないので、お互いにとって、とてもいい機会だと感じています。「地域にこんなところがあるんだ。」と知ってもらうことで第一歩だと思います
- ・目的意識を持って参加できていました。社会貢献の意義とやりがいを感じることは、単に職業を知るだけではなく、将来の希望、目標につながると感じます。
- ・ひ孫のような生徒さんが寄り添ってくださりほのぼのとした空気が漂っていました。
- ・はきはきと礼儀正しく周りの人間と接することができており、純真で子供らしく世間で言われる「今どき」ではなく、安心しました。中学生に対する先入観が払拭されました。
- ・受け入れ側も準備を工夫することでさらに生徒が変容する、伸びるのではないかと思います。できたことをしっかり評価して自信につながるようにしてやりたい。
- ・学校・家庭・事業所の距離がずいぶん近くなりました。生徒と関わることで、大人にとっても学ばせていただく機会をいただき感謝です。
- ・活動後の生徒の変化など、先生方から見た感想、意見をフィードバックしてもらえれば、次回受け入れ時の参考になります。
- ・仕事のことでなく、今の中学生に伝えたいことを話せたことがありがたかったです。
- ・我々大人も改めて、自身の仕事に対する姿勢、「人」「大人」としての自分、今の仕事に対する誇り等を見つめ直す意味でも、受け入れる側も勉強させてもらいました。

4 教職員アンケート（回答数 3, 372 人）

- （設問）
- ①ひとりひとりを大切にしたい「トライやる・ウィーク」が実施できた。
 - ②「トライやる・ウィーク」を通して生徒たちに変化が見られた。
 - ③「トライやる・ウィーク」が学校と地域社会の関係にとって有益な活動であった。
 - ④「トライやる・ウィーク」を通して生徒の新たな側面などの発見があった。
 - ⑤「トライやる・ウィーク」が教育活動を考える契機となった。



○ 教職員の感想より

- ・地域の方に見守られ・支えられて成り立っていることを実感します。この活動は学校・家庭・地域を結びつける意義深い活動であると思います。
- ・おとなしく目立たない生徒が、生き生きと活動している場面に出会えました。その後の生徒との接し方も変わり、一面からだけ見ては、良い所を見逃すと改めて思いました。
- ・不登校傾向のある生徒がトライやる・ウィークに参加したことをきっかけに今後の登校につなげていきたい。
- ・特別支援学級生徒に、地域からボランティアの方が参加し、とてもありがたく思いました。
- ・生徒にもっと任せて良いという考え方が起こりました。失敗するかもしれないが、よく考え行動していると感じる場面が見られました。
- ・キャリア教育の観点から、改めてトライやる・ウィークの重要性を痛感しました。
- ・校区推進委員による事業所訪問（登録依頼、登録お礼文書など）等の活動があり、連携した取り組みとなったことは、意味のあることでした。

[資料2] 平成26年度「トライやる・ウィーク」校区推進委員会について

1 校区推進委員会の設置状況

すべての公立中学校、県立中等教育学校、市立特別支援学校に設置されている。

2 校区推進委員会への参加者数及び内訳（平均人数）

学校関係	P T A関係	地域団体代表等	合 計
6.3名	6.4名	6.7名	19.4名

3 推進委員会の機能の状況

よく機能している	概ねできている	あまりできていない	ほとんどできていない
19.7%	59.8%	18.2%	2.6%

4 校区推進委員会が行っている活動例

- | | |
|-------------------------|-----------------------|
| ・保護者、地域への啓発・協力依頼（77.2%） | ・受入先の開拓（71.4%） |
| ・巡回訪問（59.5%） | ・受入先の検討（54.0%） |
| ・生徒の活動についての検討（43.6%） | ・事前・事後指導における支援（50.3%） |
| ・アンケート・まとめ（32.7%） | ・取材（16.2%） |